

全体で A4 用紙 10 枚以内に納めてください。スペースは自由に動かして構いませんが、字数制限がある箇所は制限以内で記載してください。

| | |
|--|---|
| チーム名・代表者氏名 | チームつながる 立岡志穂里 |
| 発表テーマ (50 字以内) | ～日本遺産認定！相良 700 年が生んだ保守と進取の文化～ チャレンジホリデー人吉♥ |
| 提案概要を 400 字以内でまとめて記述してください。 | |
| <p>「チャレンジホリデー人吉」の対象者は高校生や大学生（市内外問わず）で、1 週間～1 ヶ月の期間、人吉球磨の魅力を体感できるメニューを複数用意します。（例）農家に泊まり込み（食事付）で農業体験など→受入側も労働力確保等の利点があります。</p> <p>目的は、高校生や大学生に人吉球磨の魅力を「体感」してもらうことで、将来様々なステージで訪れる“人生の選択の時”に、人吉球磨が「住みたいまち」「働きたいまち」「結婚し子育てしたいまち」等の選択肢の一つになることです。</p> <p>体験だけでなく、寝食を共にすることで、地域の人とつながりができる。そのことが人吉球磨定住への選択を後押しします。人吉球磨特有の産業や伝統文化の他にも、“おひとよし（人吉）”と言われるような人の温かさ・優しさ等も大きな魅力の一つです。</p> <p>人吉球磨一体（官×民×学）で取り組むことで、『人吉球磨はチャレンジ空間』と言われるような施策とします。</p> | |

提言の内容

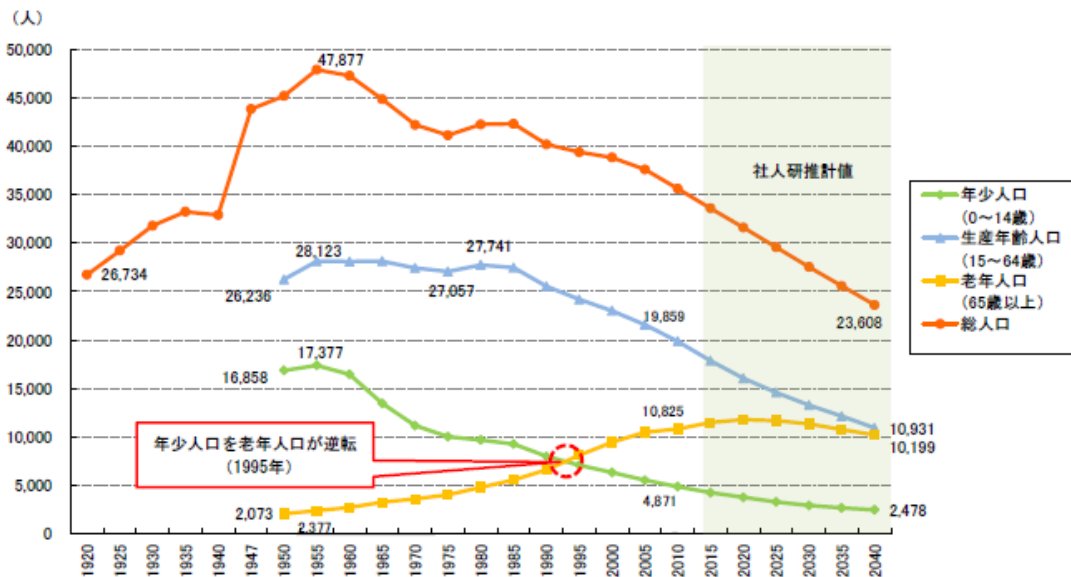
この提言で解決しようとしている問題・課題とその背景および、提言の目的を明確に記述してください。

全国的に人口が減少している上に、都市部への人口流出は続いています。人吉市は全国的に見ても 1.94 と出生率が高いにもかかわらず、人口減が続いています。多くの人口が都市部に流出している現状です。

人吉市だけでなく、球磨地域では錦町・あさぎり町・山江村の出生率は 2.0 を超えています。これは、この地域がとても住みやすい地域だということを示しているのではないのでしょうか。

【人吉球磨が抱える人口減少問題】

【年齢3区分別人口の推移】 出典：人吉市人口ビジョン（素案）



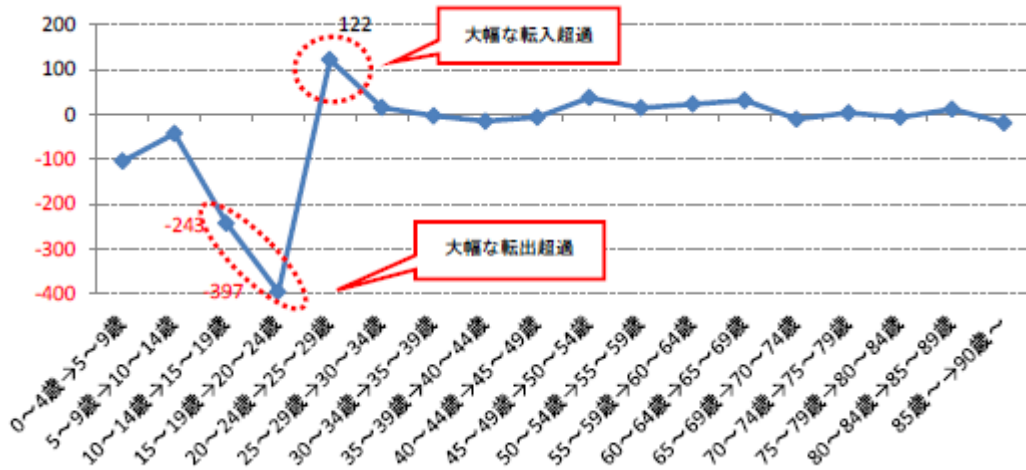
人吉市の人口は、1980年以降、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）が一貫して減少傾向にあり、一方では老年人口（65歳以上）が増加傾向にあります。1995年には老年人口が年少人口を上回り、超高齢社会の最中にあります。

特に子どもの数が少ない山間地域における小・中学校については、年少人口の減少に伴い、廃校を余儀なくされました。地域からは子どもたちの声が消え、活気のなさが目立ちます。

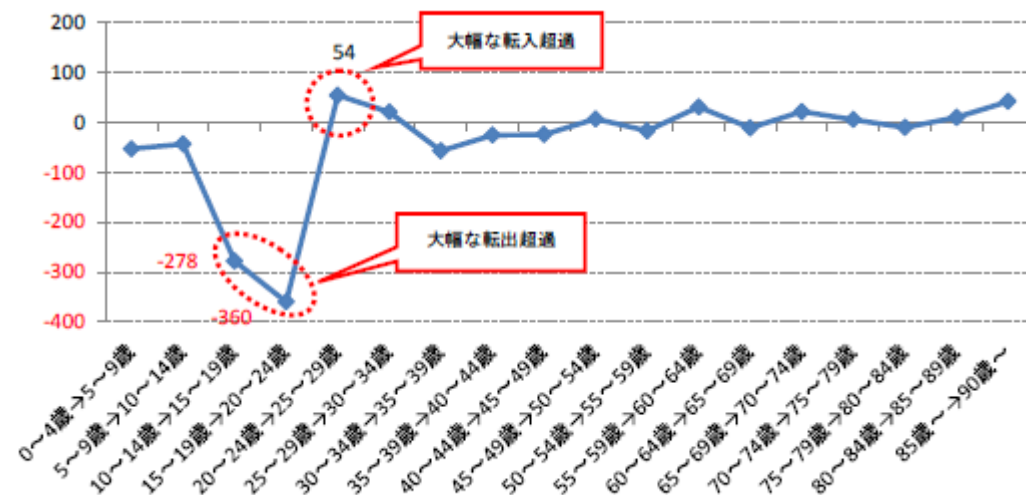
また、労働力人口も減少傾向で、特に人吉市の主要産業である農業・林業においては、労働力の減少に伴う後継者不足が深刻化しています。

【人口減少の背景】

【平成 17 年→22 年の年齢階級別人口移動（男性）】 出典：人吉市人口ビジョン（素案）



【平成 17 年→22 年の年齢階級別人口移動（女性）】 出典：人吉市人口ビジョン（素案）



年齢階級別の人口移動の状況を見ると、男女共に 10～14 歳から 15～19 歳、15～19 歳から 20～24 歳になるときに大幅な転出超過が見られます。これは、高校卒業後の進学や就職に伴う転出と考えられます。

一方で、20～24 歳から 25～29 歳になるときに大幅な転入超過が見られます。これは大学卒業後の Uターン等によるものと考えられます。

このように大幅な転出の一方で転入も認められているものの、転出数が転入数を大きく上回っているために人口流出を食い止められない状況にあります。

このことから、人口流出に歯止めをかけるためには、学校卒業後の転入・再転入を増加させることが効果的と考えました。

【高校生・大学生をターゲット】

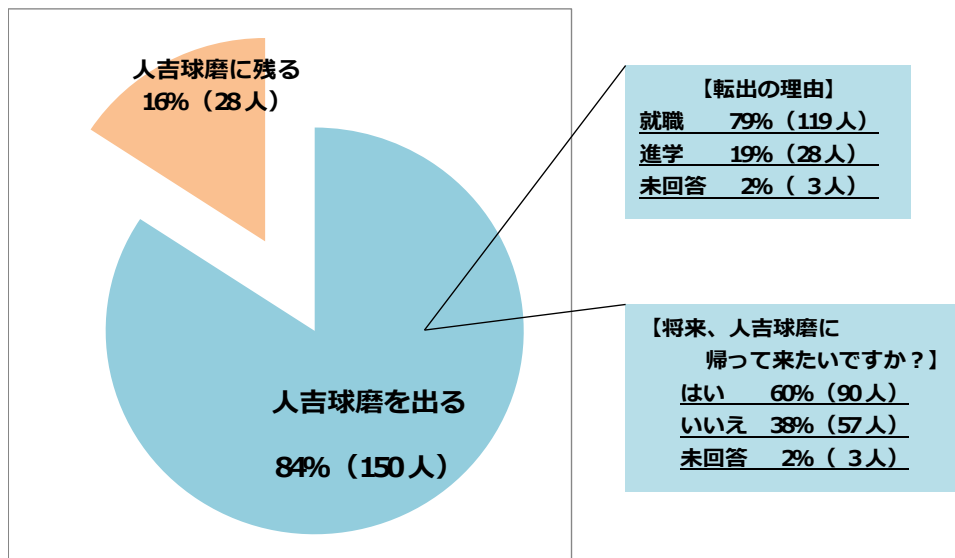
多くの市町村が現在定住促進を行っています。しかし日本全体で人口が減少している中、生産年齢を狙っても、競合が多すぎ非効率的です。まだ他がターゲットにしていない学生に的を絞ることで、今後より多くの人に人吉を定住先として選んでもらえることが期待できます。

また近年、在宅ワークなどの多様な働き方が広まりつつあることも理由の1つです。近い将来、就職によって住む場所が限定されない世の中になるであろうと考えます。働き方や暮らし方に、自分らしいライフスタイルを求める高校生や大学生に、新たなチャレンジをする場所を提案します。

【高校生へのアンケート調査から見たこと】

対象となる高校生が、どのような考えを持っているのかを知るために、人吉球磨の高校（球磨商業高校及び球磨工業高校）に通う生徒 178 人を対象にアンケート調査を行いました。

【高校卒業後の進路について】



進路の決定については、就職・進学共に「自らの希望によるもの」という生徒が大多数を占め、「地元就職先、進学先が無いから」との理由で転出を決めた生徒は少数でした。

高校卒業後に人吉球磨を出る予定であると答えた生徒のうち、「将来、人吉球磨に帰って来たいですか？」の質問に「はい」と答えた生徒は 90 人と全体の 60% を占めています。

● 「はい」の理由

- ・ 家族を支えたいから。
- ・ 住み心地の良い環境であるから。
- ・ 自分の故郷だから。

- ・子どもができたときに育てやすい環境だと思うから。

一方、同質問で「いいえ」と答えた生徒は 57 人と全体の 38%でした。

●「いいえ」の理由

- ・就職先がないから
- ・都会に住んでみたいから。
- ・田舎は不便だから。
- ・何もなくてつまらないから。

調査により、84%（150 人）もの高校生が、卒業後は人吉球磨を出る予定でありながら、その 150 人のうち 90%もの生徒が将来は人吉球磨に帰りたいと考えていることも分かりました。しかし現状としては、若者の再転入は、学校卒業後の転出を大きく下回っています。

実際に都市部での生活を経験した後、人吉球磨に戻らないということは、子どもたちが人吉球磨の魅力よりも、都市部の魅力の方を強く感じているということが考えられます。

また、就職先である都市部に退職まで居住するというような考え方が、まだ一般的だからとも考えられます。

【人吉球磨の魅力を若者に伝えたい】

アンケートでは、人吉を魅力的にするためにどうしたらよいかとの質問に、多くの生徒が「商業施設・映画館・遊園地」など“都会”にあるものを作ることと答えました。子どもたちにとって魅力的＝都会の生活となっているようです。

まだまだ行動範囲の狭い学生にとって、自宅や学校以外の環境を知る機会はとても少なく、どうしても都会への憧れや物質的な豊かさへの興味・関心が勝るからだと考えられます。

人吉球磨にしかない魅力を知ってもらうことが必要です。生まれ育ったふるさとであるにもかかわらず、その魅力を十分に理解している学生は少数でした。

若者の将来の選択肢の一つに「人吉球磨」が入り込むためには、大人への準備期間である学生の時期に、十分に人吉球磨の魅力を体感してもらう必要があります。

また、「企業に就職する」だけでなく働き方を知ってもらい、自身の将来のライフスタイルを模索してもらうことで、学生自身の選択の幅を広げます。

このことは地元の若者やUターン対象者のみならず、Iターン対象者にも同様です。高校生や大学生の時期に、人吉球磨での経験を通し、第二のふるさととして記憶に残ることにより、将来の選択肢の1つとなることが期待できます。

何も無い・つまらない人吉球磨というイメージを払しょくするためにも、若者がチャレンジできる環境・受け皿が整っている「チャレンジ空間」としての人吉球磨を、官・民・学が一体となって創造し、若者により効果的に伝わる手段を用いた方法で“見える化”す

る必要があります。

【提言の目的】

本提言の最大の目的は、人吉球磨の魅力を成人する前の段階で体感してもらうことで、将来訪れる人生の選択の時に、人吉球磨が選択肢の一つになること。将来の移住定住人口の獲得に向けた投資的施策とします。

また、本提言を実行することで若者の交流人口を増やし、まちに活気を取り戻すとともに、「人吉球磨はチャレンジ空間」としての新たな観光資源の一つとします。

提言の具体的な内容を記述してください。「誰が」、「何を」、「どのように」、「どのくらいの期間をかけて」を明確に、さらに、「いくらぐらいの予算をかけて」するのかについても言及があるとなお良いです。

人吉球磨一体（官公庁×民間×学校）で進めていくことが、今回の政策を成功させるための一番のポイントとなります。

人吉球磨には多数のまちづくり団体が存在しており、それぞれが様々なイベントを行うなど大変活力があります。そのような団体や、地元の学校、地域で熱い思いを持つ若者とともに、新たな団体を組織し協働で行う施策とします。参加者の募集に関しては、学校と連携をとって行います。

受入先については、広報ひとよしでの募集により選定し、農業や観光の分野だけでなく、福祉や教育の分野などなるべく多くのメニューを用意します。募集からコースの決定は、実施年度の前年度で行う予定。

体験期間は1週間～1ヵ月。夏休みや冬休みの期間の設定を予定しています。

周知方法は若者がよく見るSNSの利用を考えています。また、地域内の高校には課外活動の一環としての提案、地域外の高校や大学には修学旅行などのプランの一部として提案することで、予算は限りなく0円に収めることができます。

提言を実装したときに、期待できる効果はどのようなものですか。

「人との出会い」というのは、素晴らしい景色や面白い体験よりも人の記憶に残りやすいものです。優しくしてくれた“人吉のおばちゃん”や、面白かった“人吉のおじいちゃん”は、数ある市町村の中で、人吉を特に印象づけるものになります。だからこそ、体験だけでなく、人吉での生活に入り込んで人とふれあってもらうことが必要です。

チャレンジの内容は、実際に人吉に住む人が手助けして欲しいことにすることから、受け入れ側にも「若い労働力」という、大きなメリットがあります。

チャレンジホリデーの期間を1週間から1か月として、体験の休日を設けることにより、そこでラフティングや鉄道のエクスカージョンなどによる消費も見込まれます。また、期間中などに家族や友人などが遊びに来ることなどの経済効果も考えられます。

価値観が変わってきたとはいえ、人口の都市部流出の現状から考えると、若者にとって、テレビなどで見る世界である「都会」＝楽しいところで、今住んでいる「田舎」＝なにもない、つまらないところとなっているようです。多くの若者にチャレンジホリデーを体験してもらい、人吉球磨への定住が彼らの将来の選択の1つに入り、そのうちの数割が人吉へUターン・Iターンすることで、将来的に人口の社会減が減少します。

人吉球磨は出生率は1.94と全国的にみても高いので、社会減が少なくなれば、「人口増」も夢ではありません。

相良700年の自然と文化「保守」の住みよさと、「進取」の新しい働き方と新しい人財の2つの相乗効果で古都人吉を未来へ発展させます。